

湘南鎌倉生涯現役の会創立25周年おめでとうございます。

私は今年六月、50年近く慣れ親しんだ湘南・古都鎌倉から東京三鷹・吉祥寺の井の頭公園の近くに移り住んで早くも六ヶ月になります。今、つくづく思うことは自分だけで生きているのではない、皆に支えられて生きているということです。しかし、「人の絆」というものは簡単に出来るものでなく、最初は見知らぬ人同士のさりげない付き合いから徐々に気の置けない極く自然な関係になるものでしょう。

私の生活信条は「常に前向き」であることと「常に頭の力を抜け」ということですが、これはテンション社会を生きる我々には特に必要ではないでしょうか。湘現会での多くの出会いがそれを教えてくれました。それにまだまだ現役の確固たる気持ちを持つ、所謂生涯現役をつらぬくという意識革命が大切だと思います。

湘現会の歩みと共に平成27年より新しく「歌う会」が発足して既に4年、13回を重ねるに至っていますが、今後より多くの人々に参加を呼びかけ、益々盛会にしたいと思います。この吉祥寺周辺でも歌う会活動が盛んで新宿の「ともしび」をはじめ三鷹の「名曲サロン」、武蔵野の「名曲の会」、調布の「名曲サロン」、世田谷の「歌う会」・・・といろいろあります。現在、私はそのいづれにも顔を出し、楽しく歌っていますが、出来るだけ早く皆さんにとけ込みたいとと努力しているところです。

こちらでの「歌う会」活動の1つをとっても鎌倉での湘現会の諸活動の体験に教えられることが多々あります。鎌倉では湘現会の諸活動を生活のリズムの中心に据えて人生の楽しみを増幅させ、お互い教え合い、助け合って生涯現役を実践して来ました。今まさに高齢社会で、退職年齢を75歳に引き上げる検討がされているそうですが、それには、それ相応の雇用形態の導入とか、働く側の意識改革が必要です。また、高齢者が生きがいを見つけ生き活きと実践するのをサポートする受け皿のような組織を積極的に活用することこそが重要でしょう。その意味で、湘現会は貴重な存在なのです。

湘現会は今年で満25周年を迎えます。現在、私は満84歳6ヶ月ですが、現役を離れ19年、その間の14年間を湘現会にお世話になっています。平成16年10月、70歳で入会しましたが、当時、「男の料理教室」で一緒だった故高瀬輝弥さんに薦められてのことです。その頃、今は既に鬼籍に入られた植月、都築、小林、森、西原、渡辺、澤田、保多などの諸先輩各氏をご健在で随分とお世話になったものです。

入会の2年前、平成14年6月に私は脳梗塞で入院、幸い早く気づき症状も軽くて済みましたが、最初は呂律が回らず失語症のための言語療法士による訓練、それに手足の機能訓練などを要し、1年間ほどは人前にでるのも億劫でした。そのためついつい引っ込み思案の毎日を過ごす始末でした。担当医からは「出来るだけ会話の多い活動に参加すること、進んで人に接すること」を勧められていましたのでその時、既に始めていた句会、合唱に加えて、湘現会の存在意義も考えずに、入会の動機としてはいささか申し訳ないのですが、言わばリハビリの一環として湘現会を選んだものでした。

それにしても、湘現会の創立者灘上哲之助氏の英断と先見性には頭が下がります。その後、これを受け継いだ先輩方のご努力のお陰で今があるのです。現在、代表始め役員の諸兄姉が更に発展させるためご努力を重ねておられることには心から敬意を表します。しかし、会活動の充実、よりよき発展のためには個々の会員のサポートが不可欠です。それに私たちには鎌倉の財産、誇りといっても過言でない湘現会をこれからの人達のため育て引き継ぐ使命があります。それには各分科会活動を皆で、湘現会全体で支えていくことから始めていくことが大切ではないでしょうか。

私が分科会活動で最初に参加したのは土風炉での「笑考快議処」、金時山への「湘現歩こう会」、大崎海岸での「鍋の会」、それに鵜沼の「シニアサポートの会」などです。その後も各分科会活動には積極的に参加しました。湘現会活動は先ず分科会への積極参加から始まります。正に「参加すること」に意義があるのです。そしてその中でのコミュニケーションが自分の人生を構築する上で非常に役立つことになるのです。湘現会は私にとって人生の指針を教えてくださいました。まさに「感謝」の一言に尽きます。お陰様で今でも生き活きと人生を楽しんでいます。

(平成 30 年 11 月 20 日 記)